

淡路 浄瑠璃人形

2011年1月29日[土]

15:00開演 14:30開場

京都芸術劇場 春秋座

チケット 全席指定 2010年10月22日(金)一般販売開始

一般 | 3,500円

シニア | 3,000円 | ※60歳以上・要証明

京都芸術劇場友の会 | 2,800円 | ※10月21日先行販売

学生 & ユース | 1,000円 | ※ユースは25歳以下・要証明・200席限定

チケット取扱い

- ・京都芸術劇場チケットセンター | 075-791-8240 (平日10時~17時)
- ・京都芸術劇場オンラインチケットストア ※要事前登録(無料)
パソコン <http://www.k-pac.org>
携帯電話 <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>
- ・電子チケットぴあ | 0570-02-9999 (Pコード:406-807)
- ・KBS 京都事業部 | 075-431-8300 (10時~17時※土・日・祝除く)
- ・京都新聞文化センター(京都新聞社1F) | 075-256-0007
(10時~17時※土・日・祝除く)
- ・京都・滋賀各大学生協プレイガイド



劇場モバイルサイト

京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116



会場アクセス

- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番(岩倉)行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
- 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。

お問合せ先

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
tel:075-791-8199 fax:075-791-9438
<http://www.k-pac.org>

淡路 浄瑠璃人形

Japanese puppet show

淡路人形座復活上演『玉藻前囃袂』

ケレン味溢れるスペクタクルな舞台

上演演目

『玉藻前囃袂』(たまものまえあさひのたもと)

◆道春館の段 ◆神泉苑の段 ◆狐七化け

京都芸術劇場 春秋座

2011年1月29日[土]
15:00開演 14:30開場

主催: 京都造形芸術大学
舞台芸術研究センター
制作: 財団法人 淡路人形協会
後援: KBS京都 京都新聞社



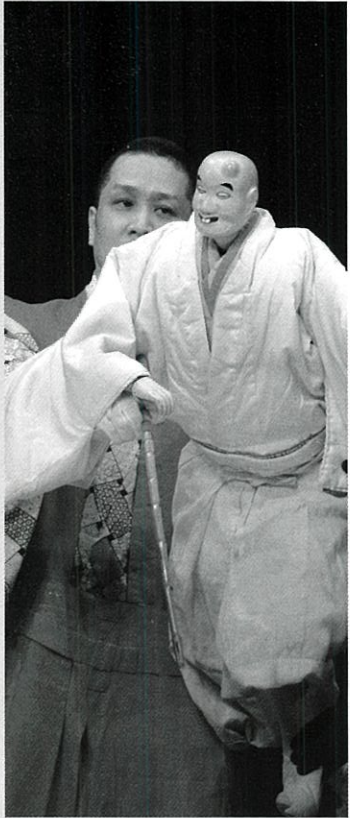
京都芸術劇場
春秋座

淡路人形と淡路人形座の歴史

五百年の歴史を誇り、国指定重要無形民俗文化財でもある淡路人形芝居の由来は色々な説がありますが、鎌倉時代、淡路島に大阪四天王寺より舞楽など神事を生業とする楽人が移り住み、その後西宮の戎神社に属したエビスカキから人形操りが伝わり、神事を人形操りで行うようになったのが大評判になったと考えられています。漁の安全と恵みを祈るものとして、また、家、土地、船を守り、神を讃える神聖な季節の行事として定着し、昭和初期までは、門付けの三番叟や戎舞が淡路の各家を回り神棚の前で幸せを祈っていました。元亀元年（一五七〇）宮中紫宸殿で三社神楽操之式を奉納した引田源之丞が繪旨を賜り従四位下に叙せられたと伝えられています。



最盛期の十八世紀初めには四〇以上の座本が覇を競い、人形役者が九三〇人もおり淡路島のみならず日本全国を巡業し、各地に人形芝居を伝えました。江戸時代の末に大阪に出て「文楽」を創始した植村文楽軒も淡路出身です。庶民の娯楽として始まった文楽と異なり、神事や宗教色の濃い外題も残り、また、野掛け舞台だったため大きな人形、大きな動作で、時代物を得意としています。早替りや道具返し、衣装山など淡路独特の演出や演技も派手でケレン味が尊ばれ、気軽に楽しめるという人形芝居本来の雰囲気を残した外題も多く、女性の座員も活躍する舞台は華やかです。



淡路人形座は、昭和三九年、淡路人形の大座

のひとつ吉田傳次郎座の道具類を元に発祥の地である市で活動を始め、現在は、常設館である淡路人形浄瑠璃館で毎日公演する一方、国内外への出張公演、学校への出張講座、小学校、中学校、高校、子供会活動の後継者団体への指導、全国の伝統人形芝居保存会への協力など、伝統人形芝居の普及、発展のための活動も積極的に行っています。座員の最高齢者は一九九八年に重要無形文化財義太夫節三味線保持者に認定された鶴澤友路、男性十名、女性九名合計十九人の座員が、情感溢れる語りと重々しく響く三味線の伴奏、三人遣いの人形による喜怒哀楽溢れる舞台を演じます。江戸時代の文化の華ともてはやされ、悲しいまでに人情の機微を諷い、哀歓の人間模様を生き生きと動き描く人形はまさに我々を夢の世界へと誘うものといえます。何世代もの人々の創意工夫が重ねられ、受け継がれた舞台芸術の粋をぜひご覧下さい。



上演演目



『玉藻前囃袂』（たまものまえあさひのたもと）
淡路人形座が演じる「玉藻前囃袂」は、読本「絵本三國妖婦伝」をもとに豊竹座が上演をした「玉藻前囃袂」を改作した作品で、三國（天竺、唐土、日本）を股にかけて金毛九尾の妖狐が、国家転覆を謀り、陰陽師の安倍泰成に正体を見破られ、鏡の威力で那須野が原に飛び去り殺生石になる過程を描いている。大きな狐が飛び、人形と主遣いの衣装の早替りとケレン味の溢れる狐七化けなど、人形の見せ場が多い。

・神泉苑の段

初花姫は入内して玉藻前となり帝の寵愛をうける。神泉苑の渡殿で亡き姉を偲んでいると一陣の風と共に妖狐が現れ、玉藻前を食い殺し、玉藻前に化ける。そこに現れた薄雲の皇子は自分の野望を語り、玉藻前を口説く。玉藻前も日本を魔界にしようとする狐であることを打ち明け、協力を約束する。陰陽師安倍泰成が神鏡で照らすと狐は正体を現し那須野が原に飛び去る。

・道春館の段

薄雲の皇子の使者金藤次が道春の館を訪れ、獅子王の剣か桂姫の首かどちらかを差し出せと後室萩の方に迫る。萩の方は桂姫が拾い子と打ち明け、実子の初花姫とすごろくで負けた方の首を討つよう頼み、姉妹は互いに負けようと争う。桂姫が勝つたのに金藤次が桂姫の首を討つたので、怒った萩の方が薙刀で切り付け、駆けつけた采女之助が脇を刺す。金藤次は苦しみながら、桂姫は自分が捨てた子で皇子の命令で獅子王の剣を盗んだのも自分であることを打ち明け息絶える。



・狐七化け

那須野が原へ逃げた狐は三浦之介と上総之介に射殺され、殺生石になる。妖狐の靈魂が玉藻前、狐、花笠、雷、座頭など様々な姿に早替りする。

